

## マネージメント情報

### ※ アメリカとカナダの搾乳ロボット事情

#### 【カナダ編-#1】

カナダ(マニトバ州)の牛舎は冬期間の厳しい気候(-30℃の日が2週間ある)のせいか北海道の牛舎と比べてみるといくつかの違いがありました。

- ① 搾乳牛舎、育成牛舎、哺育舎もお金をかけている…立派
- ② 自動化が進んでいる(搾乳・哺乳ロボットの他、エサ押し、TMR作り、敷料入れ、フットバス)
- ③ 換気施設はどの農場にもそれなりに設置されているが換気量が計算されていない
- ④ 天井がある(冬期間は屋根裏から吸気口を通して空気が入る)
- ⑤ 断熱剤が天井・壁に使われている
- ⑥ 哺育舎にはお金を掛けていて教室型といわれる作り
- ⑦ 搾乳ロボットは部屋で囲われず、そのままむき出しの農場が圧倒的に多かった  
→部屋が無いことで見通しが良く、換気(空気の流れ)がスムーズ、全体的に汚れていた

#### 【5/31】…1 軒目 Harry Vankammen 牧場

この農場は2012年に100頭のフリーストール牛舎が火事になってしまい2013年に現在のロボット牛舎(A4…4台で搾乳牛200頭)を新築しました。離農する選択肢もありましたがたまたま銀行が融資してくれたので再度営農を続けることができたということでした。

フリーストール(100頭搾乳)の時はHarryさんと息子さんと義理の息子さんの3人で仕事をしていたのですが、現在は規模が2倍の200頭になり労働力はHarryさんと息子さんの2人に減り乳量は30Kg→40Kgになったとそうです。どの農場でもロボット搾乳に移行後共通しているポイントとして労働力が減り乳量は増えたということです。単純に搾乳ロボットの導入で省力化され、多回搾乳が可能になったという理由ですが、乳量の増加については個々の農場によって差があるようです。

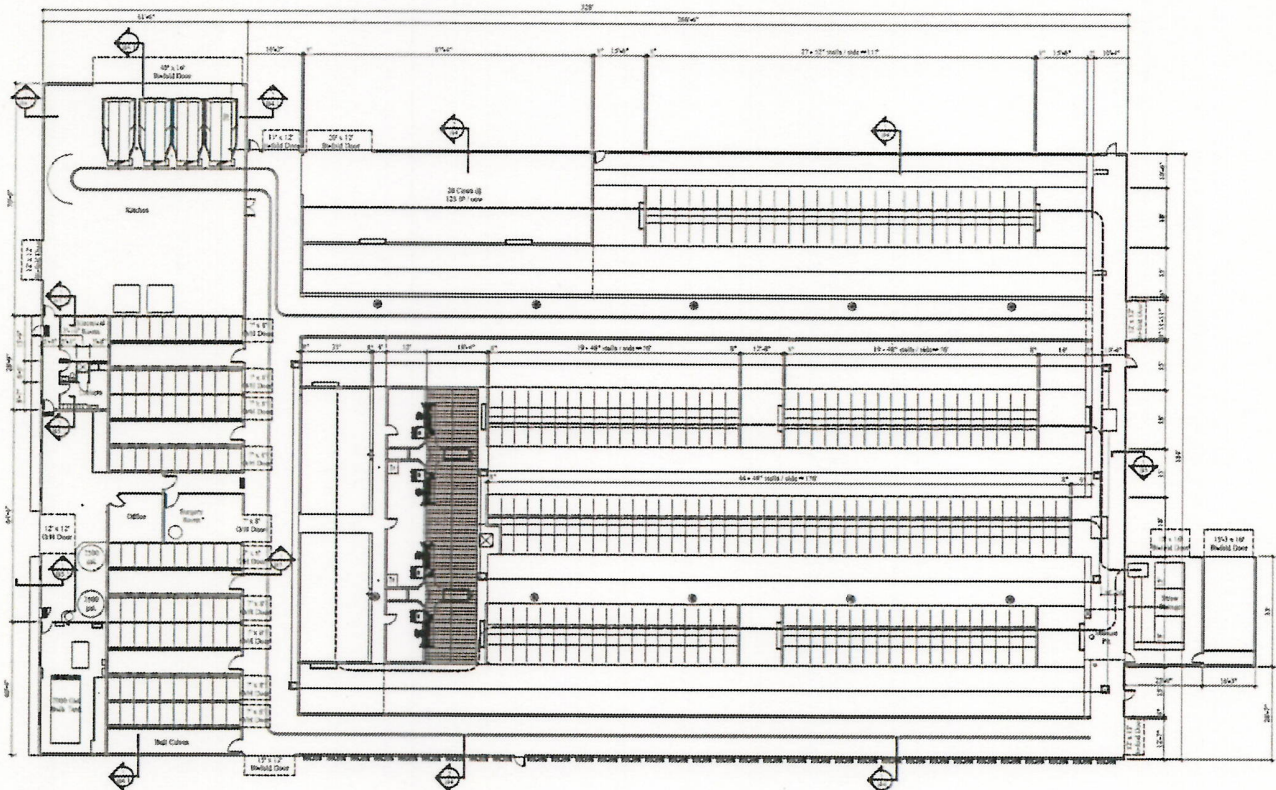




この農場の特徴として飼槽通路が一段高くなっていてスクレーパーが通らないので脚が糞尿で汚れないということ、一頭ずつパーテーションで区切られているので牛が飼槽通路を歩くことができないので汚れないということ、もう一つこの通路にはマットが敷かれていて Harry さんはカウコンフォートだと話していました。これも一つの考え方かと思います。

【5/31】…2 軒目 Divorve Farms LTD

この農場は 2015 年に新築されて自動化が徹底されていて搾乳ロボットの外、TMR 作り+エサ押し、敷料入れ、フットバスが自動でおこなわれていました。下の平面図にはロボットは 4 台ですが、現在は上のストール部分にも 2 台増設されていて A4…6 台という構成です。



1 Main Floor Plan  
B2 N.T.S.

この農場も以前は 200 頭のフリーストール (平均乳量 30Kg) から 300 頭の搾乳ロボットに移行して平均乳量は 40kg に増えたということでした。オーナーの Bruno さんは以前のフリーストールの時と比べて労働力は同じか 1 人分増えた程度で生産量は搾乳牛が 100 頭(50%)増えただけで2倍になったそうです。また今回視察した農場はどれもロボット 1 台当たり 50 頭を少し超えた程度で搾乳ロボットの搾乳可能頭数の MAX の 60 頭というところは 1 軒もありませんでした。





【内部…ロボットで給餌するので狭い飼槽通路】



【奥に見えるのが敷料入れロボット… Gondola型】



【フットバス型ロボット…Lely Walk Way】



【TMR 作りロボット+エサ押機能】



【教室型哺育舎内部】



【オールインオールアウト方式】





### 【5/31】…3 軒目 Halarda Farms

この農場は現在搾乳牛 775 頭で乳量は 36-38kg/日で、2009 年に A3…8 台でスタートした農場ですが、現在は A3…14 台に増設されています。視察に行った時もさらにもう 1 台の増設工事が行われていました。一般的な牛舎の改造及びロボット増設の工事期間は 2 ヶ月半あれば十分に終了するそうです。

もう一つのこの農場の特徴は最新式の A4 ではなく全ロボットが一つ前の型の A3 を使って増設、規模拡大しているところです。

カナダでは既に中古の搾乳ロボットがふつうに流通している環境になっていて、オーナーの Anton さんはタイプが異なる新しい搾乳ロボットを導入するよりも安価で同じタイプの旧型の A3 を好むということでした。車の流通と同じを考えるとわかりやすいと思います。

国民性なのか、オーナーの経営感覚なのか全てが新しい方を好む日本人とは違いますね。私の担当する農場で 40 年間のミルカーを使って平均乳量が 12,000Kg のところもありますので、機械は正常に動いていれば新旧ということは関係ないということですね。

いずれ日本国内でもカナダ同様に搾乳ロボットの中古品が市場に出てくる時代もくるでしょうし、自分の農場内でも同様な考え方で、古いタイプの搾乳ロボットを利用しながら規模拡大していくということも搾乳ロボット牛舎の一つの規模拡大の形になると思いました。

### 【800 頭牛舎の換気扇①…トンネル換気】



### 【牛舎内部】



### 【800 頭牛舎の換気扇②…トンネル換気】



### 【搾乳ロボット…通路はスラット(スノコ)】





【16 台のモニターで農場を監視】



【哺育舎の換気扇…外観】



【哺育舎内部…同様にオールインオールアウト】



.....

・みなさん、2回目の報告はいかがでしたか？あと2回に分けて報告する予定です。  
お伝えしたいことは今回紹介しました3軒の農場はいずれも、以前使用していたパーラー  
を使っていません。搾乳は初乳、廃棄乳ともに搾乳ロボットで搾乳されています。100頭  
規模から800頭規模の農場で規模に関係なくこのような状況です。せっかく省力化を目的  
に搾乳ロボットを導入したのですから、当然といえば当然だと思っておりますが、日本ではま  
だ併用している農場が主流のようです。  
国民性なのでしょうか？